

ほふたえ

鶴岡発

絹のみちしるべ

羽前絹練通信

第5号 2017・夏号

The road to Silk・Uzen Kenren



機械で下巻きされていく柄物の布生地。
細心の注意を払いながら作業は進んでいく。



精練を終えた布をマシンでつなげる



おらだの 仕事場 Vol.5

仕上準備 (ほごし・縫合・下捲)



色移りや汚れ防止のため
メンテナンスも不可欠



下巻きされた布をまとめ
次工程へ送っていく



精練された布地を繊細に
縫合し、捲き上げていく。
大切な工程「仕上準備」。
製品の仕上がりに関わる
重要な仕事である。

下捲の機械に生地を通していく

精 練を終えると、「仕上」の工
程へと移っていくが、その
前に「仕上準備」と呼ばれる大切な
仕事がある。精練した布地は、重
いものと軽いものに大きく分けら
れ、重いものは直巻きにし、軽い

とつにも細かな神経を使ってい
なければならぬ。まさに経験と
集中力のいる仕事である。
縫合された布は、白物や柄物毎
に分けて機械で棒状に巻かれてい
く「下捲」という工程に移る。こ
こでも布目曲がり、色汚れなどに細
心の注意を払う。布を捲く機械の
速度や針目の調整、メンテナンス
なども大切な仕事だ。最近では反物
も多種多様化しているが、過去デ
ータや試験などを通して、手間暇
を惜しまずに対応している。
少人数でこれらの工程を黙々と
こなしていく職人たち。日本遺産
認定された鶴岡絹織物文化を支え
てきたのは、こんな職人たちの真
摯で誠実な仕事だったに違いない。

ものは脱水機にかけられる。それ
から「ほごし」という作業で解反し
て、布を縫合できる状態にする。
この時点で「スレ、ヨレ」など布の
状態にもしっかりと目を配る。仕
上げに送る布地は、仕上工程で機
械にかけるため、ある程度の長さ
に繋ぎ合わせておく必要がある。
そこで次に、布をマシンで縫合
する作業（縫合）となる。年季を感
じさせるマシンに向かう女性たち
は、黙々と、テキパキと送られて
きた布地を縫合していく。この作
業も一見流れ作業のように単調に
見えるが、縫い目からシワが出る
と品質にも影響するため、布の素
材や性質を見極めつつ、縫い方ひ

おらだの職人さん Profile 5

ほごし工程では「スレ、ヨレ」
に、縫合では縫い目からの
「しわ」に、下捲では「布目曲
がり、色汚れ」などに細心の
注意を払いながら作業して
います。この工程は地味で
すが、製品の良し悪しを決め
る重要な仕事だと思います。
向上心と研究心を常に持ち、
常にいい仕事をしていきたい。



整理課 仕上準備係 主任
船山 久
(平成13年入社)

多彩な特殊加工技術で対応

- ・オパール加工・樹脂加工・毛焼き加工
- ・オイルング・スリップ止め・ピーチ加工・柔軟加工
- ・UVカット加工・防燃加工・撥水加工・抗菌加工
- ・湯通し加工・湯煮(糊落し)・漂白仕上 など

お気軽になんでもご相談ください!

仕上げ後加工
(特殊加工業務)

水洗加工

※4匁程度から

染色

絹織物・絹交織織物
(スカーフ・服地等)
※2匁～30匁以上まで

精練

羽前絹練の主な業務工程



はふたえ

第五号発刊にあたって

羽前絹練株式会社

代表取締役 **阿部 純次**

一昨年夏、弊社の企業理念や業務内容、絹織物に関する知識、有数の絹織物産地である地元鶴岡などについてご紹介したいと考え、「はふたえ〈鶴岡発〉絹のみちしるべ」を発刊してから、おかげさまで今回で第五号となりました。

この春には弊社業務を含めた鶴岡の絹産業文化が、新たに日本遺産に認定される嬉しい話題がありました。これを機に鶴岡の絹織物に関心を寄せていただき、弊社業務をご理解いただくための一助として、ご愛読いただければ幸いです。

日 本最北の絹の産地である山形県鶴岡市。文化庁は平成29年4月28日、「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」のストーリーを新たに日本遺産に認定した。日本遺産は文化財を観光資源として活用するため、文化庁が2015年に認定を始めた。寺社や城郭に代表される有形文化財と、祭りや伝統工芸など無形の文化財をまとめ、地域の歴史や文化をアピールする。外国人にも分かりやすい物語性があることを重視して認定されるものである。

絹のみちしるべ

5 特別編集

鶴岡市の「サムライゆかりのシルク」は、旧庄内藩士たちが明治維新後、刀を鋏に替えて荒野を耕し、日本最大の蚕室群を建設した松ヶ岡開墾場がストーリーの中核を成し、この蚕室群をきっかけに

鶴岡の絹織物文化が 念願の日本遺産認定

国内最北限の絹産地として発達し、現在も養蚕から絹織物まで一貫した工程が残る国内唯一の地域であり、「先人たちの努力の結晶であるわが国近代化の原風景を街並み全体を通じて体感することができる」とされた。

鶴岡市の絹文化日本遺産認定を伝える地元紙



大蚕室5棟が残る松ヶ岡開墾場(国指定史跡)

中でも市街地にある弊社羽前絹練では、国内唯一の絹織物の精練工程が明治時代創業の工場で行われ、豪商として投資などで絹産業を支えた「旧風間家住宅丙申堂」などと共に日本近代化の原風景を継承する財産として高い評価を得た。また、市では市民と地域、行政が連携して絹産業の歴史と文化の保存継承に向けた「鶴岡シルクタウン・プロジェクト」に取り組み、「キビソ」などによる鶴岡シルクのブランド化が進められるなど新たな文化価値の創出にも力を入れている。



観光・風土・自然・味覚

全国有数の修験の里・出羽三山、 神聖な異空間に凜とそびえる国宝五重塔



羽黒山五重塔

羽黒山・湯殿山・月山の出羽三山は、山伏信仰の息づくパワースポット。羽黒山の参道は2446段の石段と古杉が続く神聖な空間。参道脇に凜と建つ国宝五重塔は平将門の建立と伝えられている。山頂には、三山の神を合祭した三山合祭殿が鎮座する。

高貴な甘さとみずみずしさを誇るメロンの逸品

庄内砂丘メロン

鶴岡から酒田の海岸地域に広がる庄内砂丘やその周辺では、栽培に適した水はけのよい砂地や熱い砂の照り返し、日較差の大きい気象環境などによって、とびっきり甘くて美味しい果肉のメロンが育つ。贈り物にも喜ばれる夏の味覚。



弊社表玄関



羽前絹練株式会社

〒997-0044 山形県鶴岡市新海町21-1
TEL:0235(24)1300 FAX:0235(24)1302
e-mail mail@uzen-kenren.co.jp
URL <http://www.uzen-kenren.co.jp>